

4. 5 そだつ：アンケート抄：Q 私の人生儀礼体験

Facebook & twitter 「とある民俗学講師（の補足メモ）」

- ・テクニカルな問題／内容上の問題
- ・「やったことがない」「通過儀礼を『経験』していない」はずはない
- ・「通過儀礼」／「通過」ではない「儀礼」／「儀礼」ではない「通過」／副次的に「通過儀礼」

【安産祈願】母に確認してみたところ、「郡頭神社（こおりずじんじゃ）」という初詣などで慣れ親しんだ神社で、出産直前に昇殿参拝というものをしたのだという。実家の近くにある大きな神社で、毎年正月に参拝し、お守りを買う厳かな場所という認識しかなかったのが、昇殿したことがあったというのは意外だった。ここで初穂料を支払い、安産の祈禱をしてもらったと聞いた。自分の知らない、覚えていない人生儀礼が節目節目であったのではないかと感じた（高知県）。

【宮参り】生後1カ月の時に奈良市の春日大社へ宮参りに行きました。写真を確認したところ、祖父母もいました。祈禱料には5000円から30000円位までがあったそうで、5000円の祈禱をしてもらったそうです。

【お食い初め】新潟県魚沼市の自宅にて、父と母と3人で、普段着でお食い初めをしました。本来は生後100日ほどで行うものだが、「離乳食を開始する前にお食い初めをしよう」と考え、12月20日夜に行われた（私は6月24日に生まれ）。それまで私は、母乳、白湯、果汁しか口にすることがなかった。母の育児日記に、「お食い初めで父が赤飯や鯛を口に運ぶまねをすると、口を開け、身を乗り出した。離乳食開始が楽しみです」と書いてあった。メニューは、お赤飯、大根としめじの清汁、煮物（大根とにんじん、蓮根、椎茸、厚揚げ、里芋、蒟蒻、絹さや）、紅白なます、お頭付きの鯛、お刺身、白菜の漬物、サラダ、カキフライ、苺。写真には、父と母、私の3人のお箸が、寿と書いてある箸袋に入って写っている。

【初節句】千葉県東金市の実家では、床の間に兜と刀を飾って初節句をお祝いした。立派な兜を飾っていたが、私はその兜はあまり気に入らなかったのか、親がその兜を私に被せる時に泣き出してしまい困ったらしい。しかし、新聞紙で作った兜を被せたところ泣き止んだので、記念写真には新聞紙の兜をかぶった私が写っている。

【初誕生】愛知県一宮市では一歳の誕生日に、子供の足形にちなんだ足なり餅で子供の成長を祝うことが一般的であり、記憶には残っていないがビデオカメラで録画した足の形をつける自分の動画が残っていた。

【抓周】中国上海出身の私が最も印象に残っているのは、満1歳で行われる「抓周」です。上海の自宅で家族が集まり、そろばん、本、そして金元宝など、将来を象徴する品々を並べ、子どもに選ばせることで将来の富や才能を占いました。私は真っ先に金元宝を掴んだと両親から聞いています。授業で紹介された日本の「選り取り」にも非常に似ており、国や文化が違っても、子どもの健やかな成長と未来の幸せを温かく願う親の気持ちは共通していると深く実感しました。

【袴着】5歳の時に宮地嶽神社（福岡県宗像市）で袴着（はかまぎ）を行った。「袴着」は、男の子が初めて袴を身に着け、成長を祝う重要な儀式である。慣れない着物や草履は少し窮屈で、神社の境内を歩くのに苦労した。しかしそれ以上に、両親のいつもとは違う笑顔、親戚の「大きくなったね」という言葉を特別に感じ、いつも見ていたはずの大注連縄の迫力が増したのを覚えている。

【盆踊り】小学1年の時、北海道の新十津川町の盆踊りに、太鼓を叩く役割で参加しました。放課後、地域の大人たちや同級生、先輩などと太鼓の練習を何度も行いました。本番ではそれまで経験したことがないくらい多くの人が踊る中、と

でも緊張した。しかし地域の行事に参加できたことの嬉しさ、終わった後の達成感も鮮明に覚えています。この経験を通じて地域の伝統を受け継ぐことの大切さを学びました。

【**帰形式**】小学5年の時、京都の西本願寺で法名を授かるために帰敬式（おかみそり）を受けた。詳細な記憶はないのだが、門主より直接法名を授かった（髪を剃る動作をされる）ため、その場面は記憶に強く残っている。親に聞いたところ、親鸞が9歳の時に出家したことにちなんで法名を授かるようにしたそうである（1年遅れてはいるものの）。

【**十三祝い**】実家は神奈川県相模原市にあるが、祖父母や母が沖縄出身や沖縄育ちのため、沖縄のトゥシビー（生年祝い）である「十三祝い」をした。数え年13歳になる年に旧暦1月2日から12日の間に生まれ年と同じ干支の日に祝うもので、親戚や知人を招待する。代わりに旅行に出かけたりすることもある。自分の時は、同じく相模原市に住んでいる母親のお兄さん家族も家に来て、祝い膳を囲んだ。正月とは比にならない額を貰った記憶がある。

【**入團式**】大阪府河内長野市の片添町青年団に所属して今年で8年目になる。令和元年、秋のだんじり祭りまでの間に東片添町会所で入團式に参加した。入團式は青年団のみならず式拾伍人組や若頭会などの先輩を前にして挨拶を行い、食事を共にするというものである。中学1年生にして大勢の大人の前で話した当時の緊張感は今も思い出される。

【**卒業式（小学校）**】2020年3月、石川県金沢市の小学校を卒業した。同校の伝統として、卒業生は卒業証書の台紙を地域の伝統工芸である加賀友禅で制作する。児童は下絵、糊置き、彩色、友禅流しなどの工程を自ら行い、一人ひとり異なる文字を台紙に入れる。私は時間を大切にしたいという思いから「時」という文字を選んだ。しかし、2020年3月は新型コロナウイルス感染症の流行初期にあたり、式典は行われず、多くの時間をかけて手作りした台紙を壇上で直接受け取る機会は失われた。感染症拡大という社会的要因による人生儀礼の制限が強く記憶に残る体験となった。

【**卒業式（高校）**】2025年3月、岐阜県高山市の岐阜県立斐太高校にて卒業式をした。斐太高校の卒業式には白線流しというこの高校のみが行なっている行事がある。クラス単位で、女子のセーラー服のスカーフと男子の学生帽のひも（今となっては使われていないので入学の日にひもだけ配られる）を結びつけて一本の長い白線にして、学校の前を流れる川に流すというものだ。この目的は卒業後の永遠の友情を誓うことである。生徒たちはここで最後の交流をして別れていった。

【**成人式**】2024年1月7日、はたちのつどい（成人式）があった。式自体はそんなに印象には残っていないが、会場前で殴り合いの喧嘩になって警察が来ていたことや、黒塗りのクラウンの上に大きい旭日旗をはためかせてすごいスピードで会場前を通り過ぎていく様子などが印象に残っている。また、開式の時間になっても会場内に入らない人が多く、大規模な同窓会のような印象を受けた（和歌山市紀ノ川以北）。

【**前撮り**】この夏休みに成人式の前撮りを行った。前撮りと聞くと女性のイメージがあるかもしれないが、最近は男性が撮るのも珍しくない。実際、写真を撮って下さった方も、嫌々取られる息子と満足げな母親の構図は見慣れつつあるとおっしゃっていたし、かくいう私もその1人となった。母の選んだプランは東寺の境内で撮影するというものだった。東寺は実家の近所であって、馴染み深く、それゆえに撮影にはぴったりの場所だった。初めは嫌々撮影されていた私だが、褒められると意外とその気になってきて、概して楽しい撮影となった。

【**内定式**】東京にて内定式を行った。半年後には本格的に社会人として働くという自覚を持つための通過儀礼としての側面があったと感じる。実際、その後の懇親会などは和やかな雰囲気で行われたが、式自体はとても厳格なものであった。これは会社としても自分達にとっても、とても重要なものであったのだと思う。